

ケイティケイ（本社名古屋市）は主力事業であるリサイクルトナーの販売により、顧客の二酸化炭素（CO₂）削減に貢献している。さらに製造工程においても、工場の屋根に太陽光発電設備を設置するなど、環境に配慮した取り組みを行っている。今後は、使い捨てのトナーからリサイクルトナーに変更した場合のCO₂やプラスチックの削減量を、より正確な数値で算出する仕組みづくりに力を入れる方針だ。（中村光希）

道を創る



脱炭素社会へ

リサイクルトナーでSDGs貢献



太陽光パネルを設置した駒ヶ根工場

工場に太陽光発電設備



リサイクルトナーのイメージ

製造工程も脱炭素化

リサイクルトナーは利用企業が多いほど、環境への貢献度が高くなる。1本当たりの平均実質CO₂削減量は0・8キログラムで、平均プラスチック削減量は0・4キログラム。現在、約1万2千社に広く提供している。

希望する顧客には、トナー提供頻度や使用するプリンターの機種などから算出した顧客のCO₂削減量の概算を示し、昨年12月からは、情

報の開示を許可した企業とともに、正確なCO₂・プラスチック削減量の検証を実施している。数値算出ノウハウの蓄積に向ける。

さらに製造工程での脱炭素化にも力を入れている。2019年8月からはリサイクルトナーを製造する駒ヶ根工場（長野県駒ヶ根市）に太陽光パネルを設置した。発電能力は80キワット時（初年度）。36

57平方メートルの広さを持つ工場の電力使用量のうち、約30％を太陽光で賄っている。同社の創業は1971年。創業当時は電算機用の紙販売

を手掛けていた。リサイクルに目を付けたのは約40年前。通帳に記帳するインクをしみこませた布を、繰り返し使える設計にした金融機関向け製品「リサイクルリボン」の販売を始めた。

当時はSDGs（持続可能な開発目標）という言葉はなかったが、使い捨てるのが「もったいない」といった思いから開発に至ったと振り返る。その取り組みが今の主力事業につながっている。

青山社長は「リサイクルトナー販売事業は、顧客とともにSDGsに貢献できる。これほどSDGsに適合しているビジネスモデルは、なかなか無い。導入企業を広げたい」と話した。